

ありがとう！ 夏のおぢば

ようこそおかえり



北海道 教区報

第 591 号

発行所

天理教北海道教務支庁
札幌市中央区南 8 条西 11 丁目
電話 011 (561) 1148
FAX 011 (561) 1190
E-mail: tenrikyo.hk@gmail.com
ホームページ
<https://tenrikyohk.com>

少年ひのきしん隊

少年会北海道教区団(大脇直丸団長)は、7月29日から8月1日までの3泊4日、おぢばの少年ひのきしん隊本部練成会合同隊に、隊員男子16名、女子11名、カウンセラー8名の計35名で入隊した。

教区団は、7月27日に小樽よりフェリーにておぢばに向けて出発。29日には、南海詰所です前研修を行い、その後、少年ひのきしん隊本部練成会合同隊に入隊させて頂きました。

連日35℃を超える暑さの中、お茶出しのひのきしんをつとめさせていただき、あまりの暑さに体調を崩す隊員もいましたが、大きな身上者がでることもなく全員が揃って最終日までつとめる事が出来たことは大変ありがたく、嬉しく思います。

最終日、神殿で御礼づとめ後、詰所への移動では、連続歩調が行われ、暑さの中を隊員達が一つとなつて大きな声をだし、歩く姿を見て感慨深いものがありました。

感想文の中にはまた来年も参



お茶接待ひのきしん

加したいとの声が多くあり、本当にありがたいです。教区管内諸先生方のお力添えをいただき、今年の少年ひのきしん隊を無事につとめる事ができたことを感謝いたします。

(団長大脇直丸)

少年会 Y.Y キャンプ

8月19〜20日、少年会 Y.Y キャンプを千歳市の祝梅分教会 キャンプ広場にて行った。

1泊2日のキャンプは台風の影響も心配されたが、教務

すべて喜び

すべておたすけ

北海道教区

教祖 140 年祭 北海道教区スローガン



スイカ割り



飯盒炊爨

支庁より、ままつぶの集いの参加者数名も合流し、大勢が参加して、火おこし体験、テント設営、飯盒炊爨、スイカ割り、キャンプファイヤーと盛りだくさんの行事となった。

翌日、早朝の雨によりテントが破損するというトラブルがあったが参加会員には特に大きな身上や、怪我も無く終えることができ、とても有意義なキャンプとなった。

(少年会員25名、わかぎ13名、育成会員35名、計73名)

北海道教区のホームページ <<https://tenrikyohk.com>> で教区報がご覧頂けます

布教講話

布教部(内田誠司部長)では、8月2日、布教講話をリモートにて開催しました。

教祖140年祭活動の一年目、実動を続けている方、未だ一歩踏み出せていない方、持続できていない方等々、この句にギアを入れ直すと思う方も多くおられるのではないのでしょうか。

この度は、本部准員、布教部社会福祉課長、村田幸喜先生(満州真勇分教会長)より「何故にをいがけをするのか」をテーマに、自身が通られた前回の年祭活動で感じた事、数々の御守護についてお話頂きました。

「にをいがけはコツコツと種まきをして、そこから思いもしないほどのお与えに繋がっていき」

「今、芽が見えなくてもいつか必ず生えてくる。でも蒔かなければ決して生えることはない」



配信画面より村田先生



※こちらから動画を視聴できます

い。だからこそ種まきが大切」とのお話に、勇気と元気を頂きました。是非とも動画を視聴いただき実践につないでいきましよう！ (部長内田誠司)

青年会ひのきしん隊

一 教区青年会(岡田荃貴委員長)では、「天理教北海道青年会ひのきしん隊」を結成。

これは教区と支部の共催で企画し、支部活動の増加、災救援への繋がりがねらいの活動を目指している。

●ひのきしん隊 in 日高

7月23、24日、日高支部管内の平取分教会、膽振分教会を会場に、ひのきしん隊 in 日高を開催。青年会7名、少年会12名、大人13名の計32名が参加しました。

会員は23日午前9時半に特別養護老人ホーム平取桂園に集合し、窓ふきひのきしんを開始。午後は、平取分教会境内地の除草作業を行いました。作業後は北厚分教会に宿泊し、翌日は胆振分教会にて除草作業を行いました。

支部委員長の古川慶一さん



老人ホームで窓ふき

「今回、支部の拠点教会の一部を他支部の方に見てもらったことや、胆振東部地震の体験談や地域の災害の傾向など、情報を交換できたことは貴重な時間だったと思います。」と、コメント下さいました。

●ひのきしん隊 in 室蘭

8月19、20日、壮瞥町オロフレキャンプ場にて、ひのきしん隊 in 室蘭を開催。青年会8名、支部1名の計9名が参加しました。今回は「災害に役立つキャンプ」をコンセプトに実施。支部のベテランキャンパーの方を講師としてお迎えし、テントの建て方や簡易トイレの設置方法

などの技術を学びました。その後はお楽しみ行事も取り入れ親睦を図り、翌日は会場付近のゴミ拾いを行いました。非常に有意義な時間を過ごすことができました。

支部委員長の豊野孝徳さんは「会員さん方と災救援テントを試行錯誤しながら一緒に建てられたことが、非常に良い経験となりました。次回は家族参加も見込んだ開催も検討中です。次回もたくさんさんの参加をお待ちしております。」と、コメント下さいました。

今回の企画に際しご協力いただきました。支部の先生方、支部委員長、会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

(委員長 岡田荃貴)



試行錯誤でテントを設営

各地の動き

●支部総会

日高支部(和田与志男支部長)では、7月9日に支部総会を開催。十二下りを総立ちでつとめ、奥村教区長の記念講演を拝聴した。参加者は、44名(少年会含む)。



●こども食堂

また8月9日、支部例会後に、本日高分教会にて『こども食堂スモールスタート』を開催。ビデオ視聴後、ゲームなどをして、昼食のナンとカレーライスを美味しく頂いた。



●支部婦人会総会

函館支部婦人会(水島玲子主任)では、7月9日に総会を開催した。

今年は、支部内全婦人会員を参加対象とし65名が参加した。



「修理」と「肥」を施すために
大切なことを考える

— 釧根支部長 坂下 寛幸 —



北海道教区 27 支部において屈指の広さを誇るのが当釧根支部ではないでしょうか。

支部管内は、世界自然遺産知床半島、釧路湿原国立公園、阿寒国立公園という自然環境にめぐまれ、日本国内はもとより全世界から手つかずの自然を求め多くの旅人が訪れます。

本教の伝道史の上からは、道内のほかの地域と同様、様々な土地から新天地蝦夷地への布教や開拓を志し多くの布教師や篤い信仰を持った人々が訪れました。

その後の諸先輩方の言い尽くすことのできないご苦勞のすえ、多くの方々が助かり、当地に親神様の御教えが伝わり、今を生きる私たちがこの道をより一層発展させていこうと手を携えながら地域における信仰実践、にをいかけ活動の上につとめさせて頂いております。

私は昨年、前支部長より、今申し上げたような広大な支部の支部長という重いバトンを譲り受け、昨年はコロナ禍での支部活動を支部役員のご協力のもと、できる範囲でさせて頂きました。そして、本年は教祖 140 年祭三年千日の活動がはじまり、第一回目の「ようぼく一斉

活動日」が 10 月 29 日に控えているなど、息つく暇なくといったも過言でないくらい状況であり、あらためて支部長の重責を感じているところです。

そうした責任ある役割をお与えいただき、多くの方のご協力のもと地域でのようぼく信者のみなさまの信仰生活の下支えとなるべく支部の活動を進めさせて頂いておられます。

ここでは、私が支部の活動を行う上で目標としていること、大切に思うことなどを拙文ながら少しだけ記させて頂いたばかりです。

まずは私が支部活動を考える上で大切にしているお言葉をご紹介したいと思います。

「二粒の種を蒔く日から、出来芽が吹くか。あちらへ肥差し、こちらへ肥差し、世話取りせにやならん。世話無くして、肥無くして、修理無くして、実はなるものやない。」

(明治三十四年十一月二十一日
一作朝教校工事場出火致し、御託びのため掛員始め本部員一同願)

という、「おさしづ」の一節です。これはようぼくの成人について、その順序の理をお示し下さっているお言葉だと拝察いた

します。何代も前から、また何年も前から信仰していても、一人ひとりの信仰はそれぞれの信仰への向きあい方により、その成人の歩みはさまざまです。大切なことは一人ひとりが成人に向けてどのようにアプローチしていくか、そして周囲の人間がどのようにサポートしていくか、ではないかと思っています。

支部の役割は、あくまでも地域における助け合いであり、励まし合いと認識しています。ただ、現代社会では教会から離れた土地で生活の基盤を持つ人が増えてきました。そのため、信仰心の向上の上で、教会では手が届きにくいところを、それぞれの地域のつながりで補っていく時代となってきたと思えます。全教的に支部の役割はこれからはますます多様化していくのではないのでしょうか。

いま、お道の上で大切なことは、いかに次世代へこの信仰を伝えるか、でしょう。もちろんこの御教えを広めること(布教)は最上級の目標ですが、目下の課題は、信仰の継承、つまり働き盛り世代、子育て世代という、中若年層への信仰の伝道です。この世代に道を伝えるためにさまざまな工夫をしていくことが求められます。

その一つの案として考えられるのが、私の教会でも行っている「こども食堂」などの地域に開かれた活動ではないでしょうか。

か。この活動を通して信者、未信者の別なく広く子育て世代の方々との交流を深めていくのが有効ではないかと思えます。さらには、高齢者への見守り活動として、利用者をお誘いしたり、配食サービスをおこなう活動なども大きなおたすけ活動となり

ます。ほかに地域によって異なるかもしれないですが、子育てサポートボランティアを行うこともあります。地元に身寄りのないお母さんの子育てを地域で支えるボランティアです。このように各教会が、地域に開かれた道の辻として人々が行きかう場所となること、にをいかけの場となり、次世代への信仰の伝達、そして周囲への信仰の弘めにつながっていくのではないかと思っています。

最後に、釧根支部のお話をさせて頂いていただきます。今期の釧根支部のメンバーは、思い切った人事をさせて頂きました。これまでの支部の人事は教会長、布教所長がそのほとんどを担っていましたが、この度の人事では、働くようぼくと言われ

る一般社会で活躍されている方に主要メンバーとしてお入りいただきました。後継者の方も入ると半数以上の方に携わっていただいております。ですから、支部定例会も日中ではなく仕事が終わった後の 18 時 30 分から始

められています。これは支部活動に携わる人の状況に合わせていか

なければならぬと感じたからです。また、Zoom によるリモートでの参加もお願いし、遠方メンバーの会議参加に工夫もいたしております。

私が大切に考えているのは人があつてこそその活動にしていきたいということ。若手の方々の参加が少ないということは、若者が参加しにくい環境になつていとも考えられます。参加しやすいようなちよつとした工夫が大切ではないかと思えます。この小さな工夫が大きな収穫へとつながると思つていま

す。お道の活動は、教えの理に基づいたものであるべきですが、実際の教区活動、支部活動など人々を寄せて行う活動は、そこに参画してくれる人々の立場や心情に心を合わせ、よく考慮した工夫を施していくことが求められてくると思えます。特にこれから行われる「ようぼく一斉活動日」はそうした工夫が欠かせないと思つています。

支部活動という、地域において修理肥を施させていただくせっつかくの機会に、より多くの方々が参加していただくためには、私たち地域の道の先達に知恵を絞る、心をつくして地域の

多くのようぼく信者のみなさんの成人の歩みを支えさせていただけよう努力していかなければならぬと思つています。

多岐にわたるお話をさせて頂いたこと、誠にありがとうございました。また、お道の上で大切なことは、いかに次世代へこの信仰を伝えるか、でしょう。もちろんこの御教えを広めること(布教)は最上級の目標ですが、目下の課題は、信仰の継承、つまり働き盛り世代、子育て世代という、中若年層への信仰の伝道です。この世代に道を伝えるためにさまざまな工夫をしていくことが求められます。

ままつぶの集い 婦人会



婦人会 (奥村とう子主任) で、8 月 19 日、『立教 186 年ままつぶの集い』を教務支庁にて開催しました。(参加者 23 名、子供 37 名、託児・スタッフ 27 名、総計 87 名)「ままつぶの集い」とは、子育て中のお母さんやこれから子育てを経験する方の、ふれあい・学びの場です。



笑顔いっぱいグループタイム

夫賑わいの託児室

に、コロナ禍での出産、育児、生活の変化などを経験しての想いや信仰について語り合いました。

その後、親子でおいしい昼食、スイーツを頂いてほっこりし、午後からは参加者数名が講師となり、アロマワークショップを行いました。

各々の好みや目的に添ったアロマオイルを作り、ペア同士でハンドマッサージを体験しました。アロマの香りと講師スタッフの真心こもる指導で、身も心も癒やされた時間となりました。4 年ぶりの開催で、手探りの中ではありましたが、託児ひのきしんに、女子青年、学生会、付き添いの皆さまが、猛暑の中笑顔で務めて下さったおかげで、お母さん方も安心してリフレッシュ頂けたと感謝しています。

ままつぶの集いにご尽力頂きました皆様、ありがとうございます。

※HPでは、たくさんの写真を公開中



新教会長さん紹介

(令和 5 年 7 月 26 日お運び)

鉦根支部 北標津分教会 (嶽東)

奉告祭 9 月 13 日



花尻 清治 氏 71 歳

●ふせこみひのきしん

教務支庁にて毎月 29 日



カバーを交換

食堂のイス拭き

7 月 29 日は、庁舎周辺ゴミ拾い、食堂掃除、食堂イス拭き、厨房掃除、布団整理、布団運びを実施し、18 名が参加下さいました。

※9 月、10 月は、ふせこみひのきしんの日程が変更となります。

9 月 23 日に変更 10 月 22 日に変更



TOPICS

天理高等学校ホッケー部は 7 月 28 日～8 月 2 日、野幌総合運動公園ホッケー場 (江別市) と他会場で開催された令和 5 年度全国高等学校総合体育大会に出場するため男女部員約 30 名で来道した。

期間中は、宿泊ホテルから近い教務支庁でウォーミングアップを行い、全国高等学校ホッケー選手権大会でベスト 4 の成績を残しました。

8 月 2 日には、教務支庁にてお礼参拝、庁舎内外のひのきしんをして北海道をあとにしました。



教区長と一緒に

北海道教務支庁日誌抄

8 月 2 日 一手一つお願いづとめ

布教部 布教講話

婦人会例会

青年会 Meet!

支部長会議

しらゆき会例会

災救援スタッフ会議

札幌中南支部例会

会計部会議

婦人会 ままつぶの集い

少年会 YK キャンプ (千歳市)

青年会 ひのきしん隊 (室蘭支部)

基礎講座 教務支庁会場

教区報編集会議

教区長 婦本

教区長 会議

本部月次祭 選挙式

たすけ推進会議

運営委員会

やまびこ会

婦人会

27 スマイルプロジェクト

教区長 帰庁

天理 教学を学ぶ会

災救援 平時訓練 (三笠市)

教務支庁 ふせこみひのきしん

けいじばん

◎法律に関わる諸問題でご相談の方は弁護士を紹介致します。教務支庁書記・渡部までご連絡下さい。

◎毎月 26 日に本部月次祭 選挙式を午前 10 時より行っています。

◎ホームページでは、教区報に未掲載の記事や投稿いただいた記事も随時掲載しています。また記事の投稿もよろしくお願致します。

訃報

立教一八六年・令和 5 年

藤崎 和子 様 7 月 9 日出直 (95 歳) 旭都分教会前会長夫人 (旭川支部)

三嶋 信 様 7 月 20 日出直 (101 歳) 北八洲分教会長 (函館支部)

廣岡 キミ 様 7 月 31 日出直 (100 歳) 岷道分教会前会長夫人 (空知支部)